



2022年度大学院地域生活支援学専攻教員の横顔紹介

加登田 恵子 (かとだ けいこ)



1 所属

生活支援科学研究科
地域生活支援学専攻
特任教授

3 学歴

1980年 日本女子大学大学院
文学研究科社会学専攻博士課程
前期修了(社会学修士)

2 授業担当科目

博士前期課程「生活支援科学特論」
「生活支援科学実践研究」

5 職歴

日本女子大学(1980-1984)
共栄学園短期大学((1984-1994)
山口県立大学社会福祉学部(1994-2022)
西九州大学健康福祉学部(2022 着任)

6 研究活動

『スウェーデンにおける家族政策と社会福祉サービス』単著、文部省在外研究報告書、2001
「<児童福祉体制>受容のプロセス～舵子事件をめぐる」単著、2009
『福祉文化とは何か』共著、明石書店、2010
「高度経済成長期における児童福祉調査研究～その蓄積と表象～」単著、科研 2012-2015
『平和のバトン～原爆被爆者のライフヒストリーを追ってI～V』編著、2016-2021
「地域子ども会活動の推進に向けたコミュニティ・エンパワメントニーズに関する研究」単著、2018

7 研究テーマ・キーワード

社会福祉の日本的特質、社会福祉調査論、ライフヒストリー、市民が創る社会福祉活動

- 社会事業史学会
- 日本社会福祉学会員(2009-2015 代議員)
- 日本福祉文化学会(2008-2011 理事)
- 日本ソーシャルワーク学会

8 教育活動

「地域に根差した福祉実習教育の試み～プログラム企画演習の展開～」
「福祉専門職の生涯教育システムにおける大学・大学院の果たす役割」

10【私の人生の、ミゼラブル体験からの脱出】

微力でも誰かの役にたつ実践的な仕事につきたいと思って選んだのが「社会福祉」でした。しかし、その考えの甘さに打ちひしがれたことも、多々あります。

その時一番励ましてくれ、育ててくれたのは、他ならぬ福祉利用者さんたちとの出会いでした。支援者は、利用者から学ぶことが多いです。

11【大学人として受験生へのメッセージ】

“求めよ、さらばあたえられん、叩けよ、さらば開かれん” 知的好奇心は研究への情熱の源泉です！

9 貢献活動(地域・国際)

(独立行政法人)日本学術振興会 第10期評議員
(一般財団法人)大学教育質保証・評価センター評価委員
(社会福祉法人)るり学園 理事
(公益財団法人)山口市町村振興会 理事
(一般社団法人)山口県原爆被爆者支援センターゆだ苑
(NPO法人)山口女性サポートネットワーク 理事

この春、私が佐賀に着任したときに、神埼駅前
で迎えてくれたのが、卑
弥呼の像です。

あなたの未来を一步切り
拓くために、共に学ぶ
仲間を求めておいでくだ
さい

mail:katodake@nisikyu-u.ac.jp